

水土里ネット ながの情報

2024
NO. 23
秋号

長野県土地改良事業団体連合会
土地改良のしるべ



CONTENTS

- 第46回全国土地改良大会千葉大会
- 国会議員への要望行動
- 農業・農村政策に係る共同提言
- 都道府県水土里ネット女性理事意見交換会
- 第65回全国土地改良功労者表彰受賞地区の紹介
—中野市西部土地改良区—
- 農業農村整備サマーセミナー
- 信州棚田フォトコンテスト審査結果
- 長野県からのお知らせ
- 農家負担金軽減支援対策事業

第46回全国土地

ふさの国から飛び立て水土里の恵み



第46回全国土地改良大会千葉大会が、令和6年10月22日、「ふさの国から飛び立て水土里の恵み 力強く未来に繋ごう水土里の礎」をスローガンに千葉県で開催され、会場となった幕張メッセの幕張イベントホールに全国各地から土地改良関係者が集まった。

式典では、はじめに開催県として千葉県土地改良事業団体連合会森会長のあいさつの後に、主催者として全国土地改良事業団体連合会の二階俊博会長があいさつされた。

千葉県の熊谷知事、千葉市の神谷市長による歓迎あいさつ、青山農村振興局次長、都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問の進藤参議院議員と宮崎参議院議員、千葉県選出国會議員から祝辞が述べられた。

土地改良事業功績者表彰では、農林水産大臣表彰6名、農村振興局長表彰16名、全国土地改良事業団体連合会長表彰44名が受賞。長野県からは、大町市長の牛越徹氏が農林水産大臣表彰を、五郎兵衛用土地改良区理事長の中澤政幸氏が農村振興局長表彰を、長野県勘左衛門堰土地改良区理事長の竹内啓司氏が全国土地改良事業団体連合会長表彰を受賞された。

その後農林水産省農村振興局の青山次長が「乗り越え、受け継ぐ土地改良」と題して基調講演を行った。続いて優良事例紹介として、篠本新井土地改良区の伊橋理事長による「集落営農型基盤整備」についての事例発表が行われた。

最後に、千葉県内の改良区職員が「ふさの国から飛び立て水土里の恵み 力強く未来に繋ごう水土里の礎の大会テーマのもと、農業・農村の重要性を共有し、水土里の礎を力強く未来に繋いでいく事を、今私たちは誓います」と大会宣言を行い、次回開催の佐賀県に大会旗が引き継がれ、盛会のうちに閉会した。



賞状を受け取る牛越徹氏

改良大会千葉大会

力強く未来に繋ごう水土里の礎

農林水産大臣表彰 牛越 徹氏

大町市長
長野県土地改良事業団体
連合会 副会長



農村振興局長表彰 中澤 政幸氏

五郎兵衛用水土地改良区 理事長
北佐久郡川西土地改良区連合 理事長



全国土地改良事業団体 連合会長表彰 竹内 啓司氏

長野県勸左衛門堰土地改良区 理事長

国会議員への要望行動

当初概算要求額の確実な確保などを要望

令和6年11月5日、県及び職域選出国会議員へ、予算確保や水土里ビジョン策定に向けた支援など4項目について要望行動を実施した。藤原会長をはじめ土地改良関係者28名が出席し、井出庸生衆議院議員、後藤茂之衆議院議員、宮下一郎衆議院議員、中川宏昌衆議院議員（秘書対応）、進藤金日子参議院議員、宮崎雅夫参議院議員へ要望書を手渡した。

各議員より、要望頂いた項目の重要性は十分承知しており、農業農村整備事業の推進に向けてしっかりと取り組んでいく旨の回答をいただいた。



井出庸生衆議院議員



後藤茂之衆議院議員



宮下一郎衆議院議員



進藤金日子参議院議員



宮崎雅夫参議院議員

4つの要望項目

1 農業農村整備事業予算の確保

食料安全保障の確立のため、収益性向上を図る農地の条件整備、農業水利施設の長寿命化対策、防災・減災・国土強靱化を安定的・計画的に実施出来るよう、地域の要望を満たす予算を確保すること

2 持続的な農業用水の安定供給体制の確保

農村人口が激減する中で農業用水の安定供給を持続するため、ICT等を活用した施設管理の省力化を加速化して推進することに加え、農業水利施設等の保全管理体制強化のための水土里ビジョン策定に向けた土地改良区、水利組合等への支援を推進すること

3 中山間地農業の支援による多面的機能の維持・発揮

農業農村が有する多面的機能を継続的に維持・発揮していくため、日本型直接支払への支援をお願いします。また、中山間地域の基盤整備を進めるため、多面的機能等を簡易に評価して機動的に事業実施できる制度を創設すること

4 農業農村工学技術者の確保・育成

地域の多様なニーズに対応した整備や適切な維持管理を継続するため、農業農村工学技術者育成の取組を進めること

農業関係3団体による農業・農村政策に係る共同提言を実施

令和6年11月8日、本会は、長野県農業会議、JA長野中央会・各連合会と共同で、長野県知事に提言を実施した。各団体の会長から重点事項について説明を行い、本会の藤原会長からは、基盤整備の推進、土地改良区の体制強化、技術者の確保の3点について提言を行った。

阿部知事は「食糧安全保障の確保と人口減少対策については重要度が増しており、3団体からの提言を重く受け止める。県と各団体で連携して、活力のある前向きなビジョンを具体化していきたい」と述べられた。



左から 阿部知事、神農佳人会長（JA長野中央会）、望月雄内会長（長野県農業会議）、藤原忠彦会長（長野県土地改良事業団体連合会）

提言事項

1. 食糧安全保障の確立に不可欠な県民・国民理解の醸成
2. 人口減少社会の到来、農業者の大幅な減少に備え、今すぐ取り組むべき施策の推進

全国都道府県水土里ネット女性理事意見交換会を開催しました

令和6年9月30日～10月1日、軽井沢町の軽井沢プリンスホテルにて全国土地改良事業団体連合会と本会の共催で、都道府県土連の女性理事を対象にした意見交換会を開催した。全国から関係者100名が参加し、土地改良団体の体制強化や女性理事登用に向けた課題と解決策等について、活発な意見交換が行われた。



1日目 全体での意見交換会の様子



2日目 グループでの意見交換会の様子



発言する小林理事

事例発表

- ・「中野市・環境配慮型農業」農事組合法人三ツ和農産 NAGANO農業女子メンバー 清水絵美氏
- ・「松本市・北アルプスの豊富な水で作る米づくり」株式会社倉科農園 代表取締役 倉科孝明氏
- ・「行政が行っている土地改良事業と農業水利施設の役割や課題（千ヶ滝湯川用水）」水土里ネットながの 平林孝保氏
- ・「土地改良区が行っている農業水利施設の保全管理について」水土里ネット大井川 山下ますみ氏

全土連会長表彰 中野市西部土地改良区

中野市西部土地改良区は、千曲川の右岸の中野市の西部に位置する高丘・長丘丘陵で、りんご、ぶどう、桃、梨、プラム等を生産する果樹地帯です。

令和5年度第65回全国土地改良功労者表彰で「全土連会長表彰」を受賞した中野市西部土地改良区の高橋理事長に土地改良区の今後の展望や課題についてお話を伺いました。



高橋理事長



これまでに取り組んできた主な事業

この地域は、雨量が少なく干ばつを受けやすい地域であり、長年農業振興上の課題となっていました。昭和47年の大干ばつを契機に、高丘丘陵地帯にも畑地灌漑施設設置を求める要望が高まり、昭和54年、県営畑地帯総合土地改良事業として採択され、同年9月中野市西部土地改良区が設立認可されました。

事業内容は揚水施設、畑地灌漑施設整備282haとあわせ、農道13kmの整備を行い、畑地灌漑システムについては、コンピュータによる電磁弁制御と自然落差を利用した固定式スプリンクラーによるもので、省力的・効率的な散水が可能となりました。



受益地（大俣地区）

水源は千曲川の右岸、大俣地区の西北に取水口を設け水中ポンプで送水管を通して標高約450mに設置したFP（ファームポンド）へ約130m揚水し、ここから自然圧力によって配水するものでした。

事業は着工から平成9年度まで19年間にわたり総事業費44億円余を投じて完成し、長年の悲願であった干ばつ対策をはじめ施設改修による生産性向上・農業の近代化が実現しました。平成13年度からは、維持管理適正化事業に加入し計画的に揚水施設の改修を行うほか、令和元年度からは県営畑地帯総合土地改良事業による畑地灌漑施設工事を実施し、より一層の農業経営の安定を目指しています。



施設写真

上：第2FP

下：中野西部揚水機場
水中ポンプ



施設の維持管理

中野西部揚水機場で千曲川から取水し、調整池及び加圧機場を経てパイプラインで受益地区へ配水され、ほ場に設置されたスプリンクラーにより散水されます。改良区役員（支部長）が中央制御所、第1から第3調整池、加圧機場（揚水ポンプ）等の日常的な施設操作と点検を行っています。

大俣管理棟では、揚水機場の運転状況および各FPの水位を確認し、遠隔操作することができます。



大俣管理棟

◆多面的機能支払制度の活用

受益地内では、多面的機能支払交付金事業の活動組織として「西部水土里の会」が立ち上げられています。構成員の改良区組合員や農家等が中心となって、維持管理施設周辺の草刈り、調整池の点検等の農地維持活動のほか、電磁弁の軽微な補修、パイプラインの補修といった長寿命化工事の取組もおこなっています。



各調整池に草魚を放ち、藻の対策に役立っています



草刈り・電磁弁の修繕



今後の展望や課題

当土地改良区のスプリンクラーによる散水施設は、主に果樹栽培地域への配備となっていますが、気候の変動や発足当初からの栽培品目の変化等もあり、安定的な水の供給に対してのニーズが根強くあります。しかし、施設の老朽化、栽培園地の市街化、非農家の理解不足等の他、想定外の事案が起こることも多々あり課題が尽きません。しかしながら、この散水施設を必要としている組合員のためにも、問題を解決して維持管理をしていきたいと思っています。

中野市西部土地改良区

- ・所在地 中野市大字豊津2508番地
中野市役所 豊田庁舎内
- ・関係市町村 中野市
- ・設立年月日 昭和54年9月3日
- ・受益面積 284ha (R6.4.1現在)
- ・組合員 566人 (R6.4.1現在)

インターンシップ開催

農業農村整備サマーセミナーを実施しました！

令和6年9月20日～21日の2日間、農業農村整備に興味のある学生を対象に、長野市でサマーセミナーを開催しました！

1日目

●オリエンテーション

長野県の農業農村整備について
長土連の概要・仕事紹介

●現地見学：綿内東町地区 樹園地整備

●果樹園の再整備
(長野市若穂綿内)



- 長野県の農業農村整備について
- 長土連の概要・仕事紹介



2日目

●現地見学：大池（長野市）

ドローン操縦体験
CADソフトを使った作図



●ドローンの操縦体験



●CADを使った計画図作成

参加した学生の声

- ドローンやCADの操作といった貴重な体験をすることができた。
- HPだけでは分からない具体的な業務内容や職場の雰囲気を知ることができた。実際に自分が業務に携わるイメージをつかむことができた。
- 遊休農地の解消過程に興味があり参加したが、農業土木分野に対する理解を深めることができた。



「信州棚田フォトコンテスト」審査結果

長野県と本会が主催した信州棚田フォトコンテストは、県内各地から401点の作品が寄せられました。

10月4日(金)、信州棚田フォトコンテスト審査委員会(4名)により入選作品24点及び審査員特別賞39点を選定しました。そして、10月17日に行われた第29回全国棚田(千枚田)サミットin上田のメイン会場に入選作品24点をに展示し、参加者の投票により各賞を決定しました。



応募作品401点を審査

長野県土地改良事業団体連合会長賞



作品タイトル

ひ孫のおてつだい

作者

松野 邦弘

撮影場所(棚田名)

長野市鬼無里上平

長野県知事賞



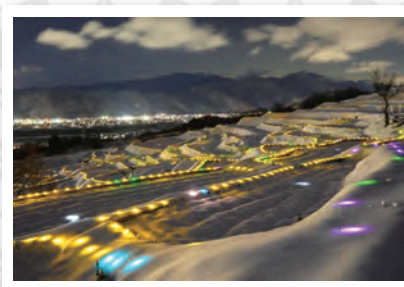
ノスタルジックな田園

第29回全国棚田(千枚田)サミット実行委員会会長賞



棚田地分

三井住友海上火災保険株式会社長野支店長賞



ペットボトルに輝いて

作品の展示

信州棚田ネットワークのホームページで入選、審査員特別賞の作品をご覧いただけるほか、県庁及び県合同庁舎(10か所)で巡回展示を予定しています。

たくさんのご応募
ありがとうございました！！

(問合せ先)
担当：農政部 農地整備課 農地・水保全係
(信州棚田ネットワーク事務局)
遠藤、毛利、常田、佐藤
電話：026-235-7241 (直通)
FAX：026-233-4069
E-mail：nochi-mizu@pref.nagano.lg.jp



人材育成に繋げよう！ 「農業資産の魅力発信」の取組



“農業用水探検隊”を通じた地元小学生による郷土学習の取組



▲農業用水探検隊（円筒分水工の見学）

上伊那地域振興局農地整備課では、身近にある農業用水路等の歴史や役割を学習し、地域の農業への理解を深めていただくことを目的に、土地改良区や市町村、農家の皆さんと連携して、地元の小学生を対象とした「農業用水探検隊」を開催しています。

この取組は、小学4年生の社会科の授業の一環として、天竜川右岸側の農業を支える「西天竜幹線水路」や「伊那西部地区畑地かんがい施設」を見学しながら、地元の土地改良区などからその歴史等をお聞きするものです。

平成19年度に取組を開始し、令和5年度末時点で、1市2町1村の9校、延べ約3,600人の児童に参加していただきました。

また、令和6年度からは、新たに天竜川左岸側にある「三峰川周辺の農業水利施設」の見学コースを設定し、地元企業や有識者の方等とも連携しながら取組を拡大しています。



▲新たな見学コース（取水口がある高遠ダム）

地元の中高生、大学生への魅力発信と人材育成の取組

先人の努力によって整備された農業用水路は、今では地域の農村風景の一つとして溶け込んでいます。農業者の減少や高齢化が進む中において、こうした施設を適切に維持管理し後世に繋げていくためには、世代を超えて地域全体で施設への理解を深めていくことが重要です。

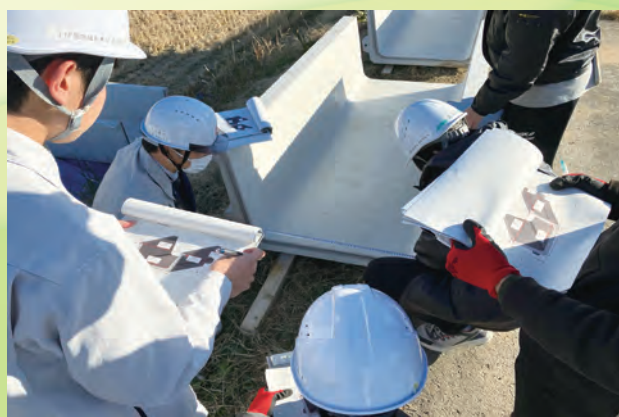
県では小学生だけでなく、地元の中学生や農業高校による職業体験、農業土木技術者を志す大学生のインターンシップの受け入れなどを通じ、農業水利施設の適切な維持管理に向けた人材育成に取り組んでいます。特に、地元の大学においては、工事現場の見学、設計・積算業務の体験等をカリキュラムの一環として組み込んでいただき、農業農村整備事業の役割や面白さを体感してもらえるよう工夫をしています。

今後も、農業農村を支える農業水利施設の魅力や役割を多くの人に理解していただくとともに、人材育成を通して、施設の適正な維持管理に繋がるよう取り組んでまいります。

それぞれの地域で取組に関する相談等がある場合は、各地域振興局の農地整備課へお問い合わせください。



▲農業高校生による水利施設の見学会



▲大学生の職業体験の受け入れ
(水路工事現場での監督業務体験)

農家負担金軽減支援対策事業について（お知らせ）

土地改良事業等の農家負担金の軽減と計画的償還の推進を図るため、土地改良負担金対策を実施しています。

（1）水田・畑作経営所得安定対策等支援事業（認定期間：令和7年度まで）

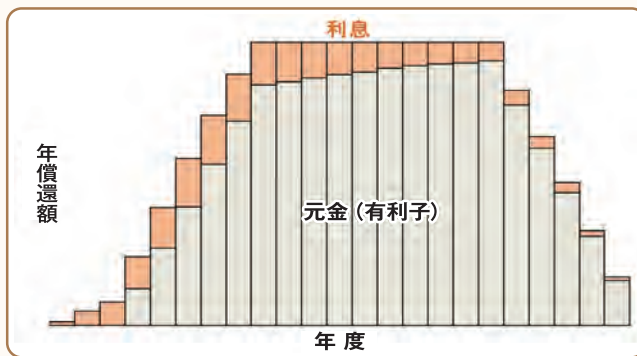
事業内容

- ①担い手農地利用集積率の向上
- ②高収益作物の生産額の増加
- ③輸出事業計画との連携

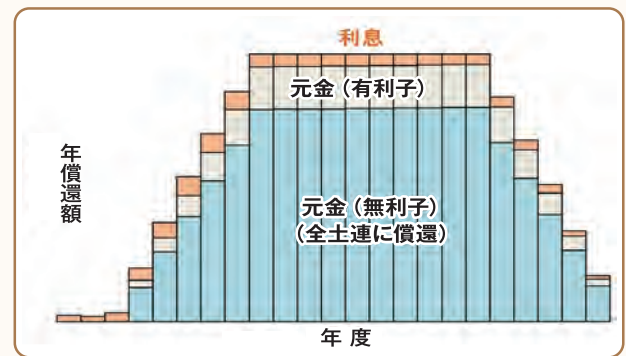
のいずれかが見込まれる地区に対して、対象事業地区に係る負担金の5/6に相当する額を限度に無利子融資を行います

対象となる負担金

- （1）国営土地改良事業の受益者負担金
- （2）土地改良法に基づき国の補助を受ける事業として実施された土地改良事業の受益者負担金
- （3）その他土地改良事業に要する経費に充てるための借入れに係る償還金



全額有利子借入の場合



水田・畑作経営安定対策支援事業を利用した場合

支援資金の利用により、利息だけでなく、元金を含めた年償還額が軽減されます

（2）農地有効利用推進支援事業

事業内容

農地耕作条件改善事業を実施する地区で、担い手への農用地利用集積がおおむね8割以上となる地区に対して、農家負担金の償還利子相当額の5/6を限度とした助成（①事業費助成型）及び農地の出し手に対する賃料の一括前払に必要な借入資金に係る償還利子相当額の助成（②一括前払助成型）を行います

採択要件

農地耕作条件改善事業を実施している地区で、担い手への農地利用集積が目標年度（原則、対象事業完了予定年度の3年後までのいずれかの年度）において、事業実施地域内農用地のおおむね8割以上となる地区

対象となる負担金

農地耕作条件改善事業の受益者負担金

お問い合わせ先

総務企画課 Tel : 026-233-4281

Mail : 1433@nag-doren.or.jp



表紙写真紹介 ————— よこね田んぼ（飯田市千代）

戦国時代から江戸時代に水田開発された110枚からなる棚田で、名前の由来は、地名が「よこね」であったからという説、田んぼの形が横に長く曲がりくねっているため「横畝(よこうね)田んぼ」と呼ばれていたという説などがありますが、はっきりした由来は不明です。高齢化などによる遊休化が目立つようになり、約4割が休耕田となっていました。平成9年に自治会、環境保全推進協議会が立ち上がり、平成10年によこね田んぼ保全委員会を発足させ棚田の保全活動に取り組んでいます。平成11年7月「日本の棚田百選」に、また、令和4年2月には、「つなぐ棚田遺産」として再認定されています。

文：長野県HP-南信州地域振興局



どろん
水土里ネットながの
土地改良のしるべ

発行：令和6年11月（年4回発行）
発行所：長野県土地改良事業団体連合会
〒380-0838 長野市大字南長野字宮東452番地の1
TEL026-233-4281 <http://www.nag-doren.or.jp>
土地改良のしるべ編集人：白鳥 公晴